

久慈市復興計画についての意見と回答

※意見については、原文のまま掲載しています。

意 見	回 答
1 久慈市役所庁舎の被災に備え、「第2市役所」「バックアップ機能」としての山形地区庁舎を整備しておき、イザという時は、市長以下、幹部、消防本部は山形庁舎より災害の陣頭指揮を行えるようにしておく。	第2市役所の整備は現在のところ検討していないところでありますが、現在策定中の「久慈市復興計画」において、災害に強いまちづくりを柱に掲げているところであり、この中で津波防災施設の整備など多重防災型のまちづくりを推進してまいります。
2 ミニFM局の整備。どこの橋が冠水し、どこの道路が通行不能となり、う回路はどこを通れば良いか、24時間、放送で情報をどの世帯にもラジオがあれば伝えられる体制を作りあげておく事。これは、市役所に対する信頼のアップにもつながります。	ミニFM局を市で整備することについては、現在のところ検討しておりませんが、災害時には防災行政無線や臨時災害FMの開局など情報伝達手段の確保に努めてまいりたいと考えております。
3 滝ダムの耐震状況のチェック。滝ダムの万が一の崩壊に備えた計画の策定。これは、久慈の防災における「盲点」のひとつです。	岩手県において適切に管理していくものと考えております。
4 今後10年間は、チェルノブイリの時のような「遠隔地の放射能のホットスポット」に久慈広域が成っていないかどうか、常に地表面の放射能を計り、結果を公開する事。海外の観光客に対するアピールにもつながる事です。	放射能測定については、現在、国・県の専門機関において調査、公表されているところであり、本市としましても、この情報に基づいて適切に対応してまいりたいと考えております。 なお、本市においても6月補正予算において、簡易型放射能測定器を整備する予定としており、今後、これによって必要な情報収集を行ってまいります。現在のところ、その結果の公表までは想定しておりません。
5 「高規格道路について」 八戸線の代替として、高規格道路整備それに伴う高速バス路線を優先。八戸駅、三沢空港への短時間化を図り、首都、関西圏との距離を短縮。企業誘致のメリット、八戸圏への通勤、六ヶ所原子力防災道路として位置づける。	今回の大震災を受け、災害に強いまちづくりを進める観点から、高規格道路や道路網の整備を進めていくこととしており、ご提言の八戸駅までの時間短縮については、八戸・久慈自動車道の早期整備に向けて努力してまいりたいと考えております。

	意見	回答
6	<p>「エネルギー」</p> <p>三陸はやませ地域のため、太陽光は困難。地形を利用した、部落単位の小規模水力発電を推進する。</p> <p>また、海岸部では小規模潮力・波力を推進、研究所の誘致。</p>	<p>再生可能エネルギーについては、5つの重点プロジェクトの一つとして、今後、復興計画に基づく実施計画において、研究機関や民間の支援、協力も得ながら、検討、可能性調査等を行っていくこととしております。</p>
7	<p>「魚類ブランド化」</p> <p>近海雑魚たる、アイナメ、エゾアイナメ、アナゴ等を久慈〇〇、北三陸〇〇として、加工基地とし行い、首都・関西圏に提供。</p> <p>尚、干しハモ（アナゴ）は関西地域では未知である</p> <p>下関ふく、関サバ等、山陰境港では“のどぐろ”干物が有名。</p>	<p>復興計画において、「つくり育てる漁業の推進」をプロジェクトの施策に掲げており、ウニ、アワビ、ナマコ等の蓄養施設のほか湾口防波堤の建設に伴う静穏水域を活用した新たな魚介類の養殖施設の整備についても計画しており、その中において、魚類のブランド化について研究してまいりたいと考えております。</p>
8	<p>「産業」</p> <p>岩手県南部に誘致しようとしているILC計画に参画できる、加速器研究学園都市を目指す。高規格道路整備してIETRとILC技術を結ぶ、中継都市、大学研究機関を誘致出来る都市づくりをする。</p>	<p>超大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」については、現在、その受け入れを目指す産学官組織・東北加速器基礎科学研究会においても検討されており、ここでは国内候補地の一つである北上山地の調査研究を進めると聞いております。しかしながら、これは国家プロジェクトとして取り組む事項であり、国内には他の候補地もあることから、現時点では、今後の動向を注視してまいりたいと考えております。</p>
9	<p>「燃料備蓄」</p> <p>化石燃料市内備蓄基地を設け、病院施設、暖房燃料として1週間程度提供できるようにする。</p>	<p>化石燃料市内備蓄基地については、現在のところ計画しておりませんが、今回の大震災を受け、病院、保健施設等のバックアップ電源等については、実施計画において検討してまいります。</p>

	意見	回答
10	<p>岩手県が策定した『岩手県東日本大震災津波復興計画 復興基本計画（案）』を踏まえ具体的な構造を提案させていただきます。</p> <p>【提案対象分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防波堤 ・ 防潮堤 ・ 盛土（道路・鉄道）・堤防（河川・海岸）工 ・ 岸壁・護岸・栈橋工 ・ 擁壁（道路・宅地造成）工 ・ 法面对策工 ・ 人工地盤・嵩上げ対策 ・ 魚市場、水産加工場、倉庫（鋼製建屋） ・ 集合住宅、個人住宅（スチールハウス） ・ ヘドロ対策、海洋生態系対策（鉄鋼スラグ） ・ 各種海浜耐候性鋼材 <p>（詳細は別添図のとおり）</p>	<p>提案をいただいた防災施設の構造等につきましては、国・県が直接施工するものも含まれておりますが、貴重な提案として、今後予定している実施計画策定等の際の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>細部にわたって配慮された計画案と存じます。ハード面では完璧に拡充され行き届いています。申し上げたいのはソフト面です。</p> <p>少子化、高齢化、都市への人口流出はどこでも問題ですがそれを食い止めるシステムを考えられないかと思えます。</p> <p>第5章 第3節 プロジェクトⅢ『交流人口を拡大する』の部分です。</p> <p>岩手日報（5月3日）に平田オリザさんの来県の記事がありました。彼の提言に私もまったく賛成です。「東北自由大学」の構想です。地域に半年から2年程度滞在してアートを学ぶ仕組みです。アートは芸術、技術なんでもいいのです。教員が来る、専門家が来る、学びたい若者が集まる地元の中高年者たちも教えたり、教えられたり。久慈には施設があるのです。アレン国際短期大学時代の校舎と学生寮5棟、教員住宅そしてアンバーホールが発表の場に使えます。</p> <p>平田オリザさんに直接市長さんから話さ</p>	<p>久慈市復興計画においては、第4プロジェクトの災害に強いまちづくりの部分で、ハード面の充実と並んで、ソフト面の充実を強く打ち出しております。また、久慈市総合計画でも「市民との積極的な協働」を第1章に掲げ、ソフトの充実を掲げているところでありますので、ご提言の趣旨に沿って対応してまいりたいと考えております。</p> <p>ご提言の「東北自由大学」構想については、今後の市政運営の際の参考にさせていただきます。</p>

れてみてはいかがでしょう。彼に任せたら必ず何かが生まれると思います。

久慈は岩手県の中でも文化も風土も人情も豊かです。久慈のこの特性を大いにアピールしてソフト面でのプロジェクトの立ち上げを試案したらいかがでしょう。